

「冠たる日本」

2014年05月17日

安倍首相は、憲法解釈によって「集団的自衛権」を行使できる国にしようと燃えているようである。憲法改定を悲願として、まず憲法 96 条の「各議院の総議員三分の二以上の賛成で」を二分の一に改定し、垣根を低くしようとした。大きな反対に会い、引っ込めたようである。続いて、憲法解釈による集団的自衛権行使を主張している。集団的自衛権の行使は海外に自衛隊を送って、戦争をするということである。そう考えるならば、堂々と憲法改定を訴え、国民的な支持を上げばよい。姑息な憲法解釈論で進めようとすることは、精神衛生上、良くない。憲法の条文だけを残し、内実を剥奪することはニヒリズムを生む。

安倍首相は「冠たる日本」への野望を目論んでいるのではないか。日本は鎖国から目覚め、世界を知り、欧米列強に追いつくと必死であった。そして、アジアの解放という名目で「冠たる日本」になろうと、アジア・太平洋戦争へと突き進んだ。その結果、二千万人を超す戦死者を出し、無残に敗北した。この経験から、違う日本を目指した。それが、武器不保持、戦争放棄の憲法 9 条であった。

世界の政治の現実には、武力と経済力を持つ国の横暴がまかり通っている。米国は国連の支持を受けずに、イラク攻撃に走った。15 万人が殺されたと言われている。テレビ映像で見たバグダッド攻撃は花火のようであった。しかし、その下では、イラク民衆の耐え難い恐怖と死があった。イラク攻撃の理由は大量化学兵器を所持しているということであったが、それは、誤報であることが分かった。殺されたイラク民衆の死は何であったのか。こんな無謀が許されるはずがない。しかし、米国はのうのうとし、世界も咎めてはいない。

ロシアがウクライナ紛争に介入した時、経済制裁が行われた。ロシアのプーチン首相は、米国がイラク攻撃をした時、何の制裁も行われなかったと言ったが、頷くこともできる。この不条理をどのように説明するのか。大国の横暴が世界を悲惨と不幸に陥れている。

安倍首相は、この政治力学の仲間に入り、米国と手を組んで、勇ましい軍艦マーチの「冠たる日本」を夢見ている。「国民の命と財産を守る」と言うが、戦争は常に経済戦争であり、その戦争に駆り出されるのは経済格差で苦悩する若者たちである。そして、弱者が傷つき、殺されていく。世界に伸していかなくても、贅沢に住まわなくてもいいではないか。経済的浮揚が金科玉条になっているが、地球資源の枯渇を早めることでもある。そして、戦争は最大の浪費である。人は皆、分かち（シェア）合って、安心して生活できることを願っている。

私も「冠たる日本」であってほしいと思う。その「冠」は武器に頼らず、戦争をしない日本を世界に発信し、平和・共生を実現する「冠」である。